

書塾の仲間たち

第 225 回

ひだまり書院（静岡県裾野市）



※書塾に連絡したい方は事務局へお問い合わせください。

ひだまり書院

伊藤 翠香

毎年十二月に行っている恒例の行事。通常曜日や学校、学年が違う仲間とゲームなどで楽しく協力し合い、絆を深めています。このような教室ですが、これまでたくさんの方に支えていただき、おかげさまで十一年目を迎えます。これからも子どもたちの成長を間近に感じるこのできる幸せに感謝しながら、生徒の皆さん一人ひとりが笑顔になれる書道教室を目指し精進していきたいと思います。

▼クリスマス会

毎年十二月に行っている恒例の行事。通常曜日や学校、学年が違う仲間とゲームなどで楽しく協力し合い、絆を深めています。このような教室ですが、これまでたくさんの方に支えていただき、おかげさまで十一年目を迎えます。これからも子どもたちの成長を間近に感じるこのできる幸せに感謝しながら、生徒の皆さん一人ひとりが笑顔になれる書道教室を目指し精進していきたいと思いま

す。同じ地区にある長教寺本堂で行われる文化祭に、毛筆や硬筆、条幅や創作作品を展示しています。地域の方に日頃の努力の成果を見せていただく発表の場となっています。六回目となる今回はコロナ禍の中、見る方にも元気になってもらえるようと「夢」をテーマにしたカラフルな作品に挑戦しました。

▼長教寺「秋の文化祭」作品展示

当教室「ひだまり書院」は、富士山の麓、静岡県裾野市にある書道教室です。小学校での指導経験を生かし、小中学生を中心に、児から大人の方までを対象に指導しています。書写や書道を学ぶことを通じて、「積み重ねの大切さと成長する喜び」「仲間と切磋琢磨しながら学ぶ楽しさ」を感じてもらえるように、そして「ひだまり」のように暖かく心穏やかに育つ学び舎でありたいと願い、日々生徒さんを迎えてきました。

●書塾からひとこと●

学年 <small>小三 小四 小五</small>	七夕で、ねがい
現段級	ごとを短ざくに書
級	さしまし。
氏名	仲地あやな



東京都八王子市立第五小学校三年

仲地 彩菜なかじ あやな

広島県熊野町立熊野第二小学校五年

中原 千尋なかはら ちひる

小五 中原千尋

飛雲



世界で一番きれいな字を書きたい

私は両親にすすめられて、習字教室の体験レッスンに参加しました。それまで一人で教わる習い事しか経験したことがなかったので、みんなといっしょにレッスンする書道教室は新せんでした。友達といっしょに学ぶことがすごく楽しかったので、書道をすることにしました。

私は左ききです。こう筆は左手で、毛筆は右手で練習しています。こう筆は、先生やみんなとお手本の置き方も、おさえる手もぎやくななるけれど、お手本や先生の字をよく見て、左手で同じように書く練習をしています。右手で書いている人と同じように練習しても、左手で書くと手があります。右手で書いている人と同じように練習しても、左手で書くことはとても難しく感じます。中でも、はらいは難しいです。でも先生にアドバイスをもらひながら、少しずつうまく書けるようになつていています。

普段は左手で字を書くので、毛筆の練習のときに右手で字を書くことはとても難しく感じます。中でも、はらいは難しいです。でも先生にアドバイスをもらひながら、少しずつうまく書けるようになるといなと思います。左手でも右手でも上手な字が書けるようになります。

私が字を書くときに大切なことは、つくえに向かって集中し、一字一字ゆっくり書くことです。特に「せなかをピンとのばす」ことで、きれいな字が書けます。それから、字のバランスを考えて書くように気を付けています。

書道を習い始めてから、クラスのみんなから「字が上手だね!」と言われるようになりました。学校の書き初めでも、たくさんの花まるがもらいました。とてもうれしかったです。

私は左手でも右手でも、世界一きれいな字を書きたいです。先生が書いている字より美しい字を書くのが目ひょうです。そのため、字をいっぱい書いていきたいです。

初心を忘れない

わたしが書道を始めたきっかけは、小学一年生の時、学校のたん任の先生に、「あなたはとてもいいに字を書きますね。書道を習うといいですね」と、ほめられたことがとてもうれしかったからです。兄がすでに書道教室に通っていたので、わたしも習いたいなと思いました。

二年生になつて、学校を転校することになり、今の高下書道教室に兄妹で通うことになりました。とてもうれしくてわくわくしたのを今でも覚えています。

初めて筆で書いた時は、「えん筆とはちがって、先がやわらかく、不思議な感じがしました。あまり上手に書けなかつたけれど、先生に、「元気があって、すごくいいね。」と、ほめてもらえてとてもうれしかったです。

おかげ古を重ねていくうちに、おもしろくて、あつという間に書道が大好きになりました。

わたしは、書道教室に通つてからたくさんの賞をいただくことができました。大きな大会などで賞をとると、お母さんが「わあ、すごいね。上手に書けているね。」と、ほめてくれたり、友達が「すごいね。やつたね。」と、自分のことのように喜んでくれます。けれど、書道教室の先生は「賞をとることが全てではないよ。一番大切なところはそこではないよ。」と言われます。先生の言わることは時々むずかしいけれど、日々のおかい古を一生けん命がんばっています。

上手に書けなくて、なみだが出ることもあるけれど、書道が大好きという初心を忘れずに、これからも、家族や先生に支えてもらいながら楽しく書道を学んでいきたいです。